

# Business Report

## 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
その他必要がある場合、あらかじめ公告する一定の日
- 剰余金の配当基準日 期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 (お問い合わせ先) 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話 0120-094-777 (通話料無料)
- 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店  
株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。  
電話 (通話料無料)  
0120-244-479 (本店証券代行部)  
0120-684-479 (大阪証券代行部)  
インターネットホームページ  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
- 単元未満株式の買取請求 単元未満株式の買取りは上記の株主名簿管理人事務取扱場所および取次所で受け付けております。(株券保管振替制度をご利用の方は、お取引証券会社へお申し出ください。)
- 公告方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。  
(<http://www.teikokudenki.co.jp/>)

当社に関する情報はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.teikokudenki.co.jp/>



株式会社 帝国電機製作所

〒679-4395 兵庫県たつの市新宮町平野60番地  
TEL 0791-75-0411

株主のみなさまへ

第103期 年次報告書

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

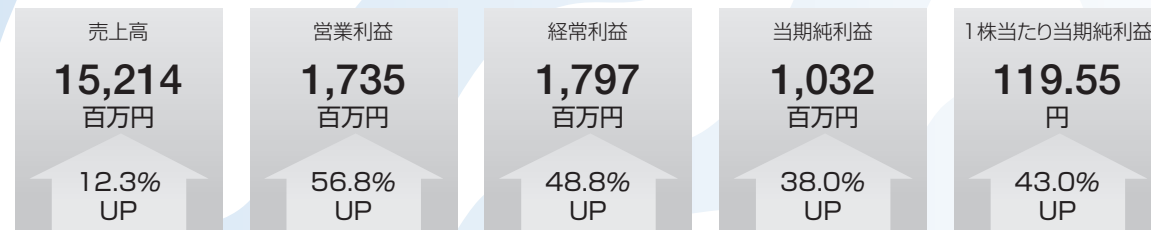


株式会社 帝国電機製作所

### 当社の強み

- キャンドモータポンプで世界および国内No.1のシェア
- 高い競争力を誇るテイクコク独自のオンリーワンの技術力
- 石油化学プラント、新幹線や原子力発電所などに高い採用実績

### 業績ハイライト



#### ● 4期連続の増収増益

売上については、主力のポンプ事業が国内市場・海外市場とも好調に推移し、増収。

利益面においては、原価低減等による粗利率の改善、販売費及び一般管理費の節減努力等により増益。

#### ● 記念配当の実施

中間配当…1株につき10円(普通配当8円、東証一部上場記念配当2円)

期末配当…1株につき12円(普通配当10円、大証一部上場記念配当2円)

### 当期トピックス

- ドイツ・フランクフルトの化学機械展示会「ACHEMA(アヘマ)」に出展
- 東京証券取引所市場第一部・大阪証券取引所市場第一部に上場
- 代表取締役の異動

※詳しくはP11～12をご覧ください。

おかげさまで、東証・大証一部上場、過去最高益達成。  
さらなる夢の実現に向けて、株主価値の向上に努めます。

当期における世界経済は、米国で住宅投資を中心に減速感が見られたものの、アジアでは中国をはじめとして高い経済成長を維持し、全体としては概ね拡大基調を維持しました。また、わが国経済は、米国景気の減速懸念や原材料価格の高止まりなど不安定要因があったものの、企業収益の回復による設備投資の増加や個人消費の拡大を背景に、緩やかな成長を維持しました。このような状況下、当社グループは「迅速果敢」をスローガンに、前期に引き続き積極的な海外戦略を展開し、北米でのキャンドモータポンプ市場の拡大を目指した米国子会社 TEIKOKU USA INC.の営業力強化、中国子会社大連帝國キャンドモータポンプ有限公司の営業力強化・管理体制の拡充等を推進してまいりました。また一方、国内においてはユーザーとの継続的な信頼関係の強化に努め、市場および顧客ニーズに対応した提案型営業を展開するとともに、原価低減、技術開発、品質向上、生産性向上、サービス体制拡充等経営体質の強化に努めてまいりました。当社グループの当期の業績は、主力のポンプ事業が国内市場・海外市場とも好調に推移したことを主因に、売上高は152億14百万円(前期比16億70百万円増加、12.3%増)となりました。利益面につきましては、原価低減等による粗利率の改善、販売費及び一般管理費の



代表取締役社長 宮地國雄

節減努力等により、営業利益は17億35百万円(同6億28百万円増加、56.8%増)、経常利益は17億97百万円(同5億89百万円増加、48.8%増)、当期純利益は10億32百万円(同2億84百万円増加、38.0%増)となり、過去最高益を達成することができました。今後とも株主の皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月

# 世界に誇るキャンドモータポンプの技術を強化しながら、 米国・中国など成長市場を拡大し、小粒でもキラリと光る オンリーワン企業を目指します。



代表取締役社長 宮地國雄

## Q. テイコクの現状および世界市場での位置づけについてお聞かせください。

当社は、様々な産業分野に欠かせないキャンドモータポンプのトップメーカーとして、積極的に世界戦略を展開しております。中国大連市での生産子会社の設立をはじめ、アメリカではキャンドモータポンプの発祥会社を買収するなど、海外事業の拡大強化を推し進めています。その結果、連結ベースの海外売上比率は、40%を超えています。また、主力製品であるキャンドモータポンプの世界シェアは約40%、国内市場では約60%と、圧倒的な優位性を保持しています。

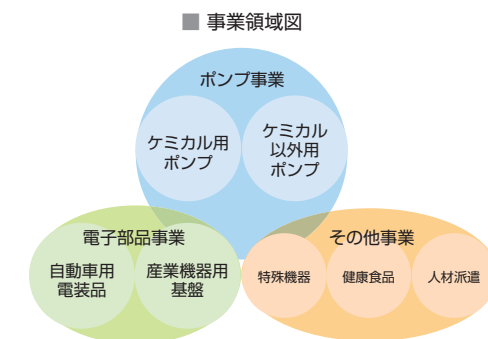
## Q. 世界最大手へ躍進された要因はどこにあるとお考えですか。

当社は、約70年前、中小企業から出発した会社です。キャンドモータポンプ市場に参入した当時はすでに先発メーカーに市場を押さえられていましたが、その中で、他社が難しいと手を上げた案件に挑戦することからスタートしました。何度も失敗を繰り返しながら、一つ一つ課題を解決し、実績を積み上げ、さらに機動力やアフターサ

ービスの良さで他社と差別化し、お客様に育てていただきながら、シェアを着実に伸ばしてきました。長い歴史の中では銀行管理下に入ったこともあり、こうした経験からくるハングリー精神、石橋をたたいても渡らない堅実経営こそが、当社躍進の最大の原動力と考えています。

## Q. キャンドモータポンプの良さをひとことと言うと。

キャンドモータポンプとは何か。こうしたご質問に対する説明は簡単です。まずポンプとは、構造的に絶対に漏れるものです。あの「サリン」のように、世の中にはほんの一滴が漏れただけでも大きな被害を引き起こすものがありますが、こうした劇物も世の中になくはない大切なものでもあります。そういう漏れてはいけないものをただの一滴も漏らさないポンプが当社の製品なのです。また、「漏らさないポンプ」と「漏れないポンプ」の違いも重要です。漏らさないポンプは、メカニカルシールという部品を取り付けて液漏れを防いでいるだけで、定期的に部品交換をしないと、液漏れが必ず起こります。



当社のキャンドモータポンプは構造上絶対に液漏れが起りません。その特徴が評価されて、石油化学プラント、原子力、新幹線など、様々な分野に使われており、当社のポンプは、なくてはならない存在になっています。

## Q. 米国・中国のメガ市場に対して、今後どのような海外戦略を展開されますか。

日本をはじめ海外市場の多くでは、「漏れてはいけない所にはキャンドモータポンプ」という常識が定着しつつありますが、唯一の例外がアメリカです。元来、キャンドモータポンプは、当社が買収したアメリカのケミポンプ社という会社が世界で最初に開発したものです。ところが市場対応の不足からキャンドモータポンプは故障しやすいという誤ったイメージができています。その結果、アメリカでは競合するメカニカルシールポンプが主流となり市場の約9割を押さえられています。日本では、様々なクレームを一つ一つ解決して確実にキャンドモータポンプのポジションを作っており、アメリカ市場へも



TEIKOKU USA INC.

こうした日本流のやり方でシェアを奪回しようというのが当社の戦略です。現在の代理店方式に、直販方式も織り込みながらどうミックスさせて市場を開拓するか、これが今期以降の課題です。一方、中国市場はまったく逆の展開です。ここは、今まさに、化学工業の黎明期を迎え、石油化学、電力関係など、空前のインフラ整備ラッシュという状況です。当社は平成6年から直販体制で進出していますが、市場の急拡大には追いつけず、手が回らないのが現状です。現在、当社の主力市場である石油化学業界については、海外市場を中心に、需要が拡大し、フォローの風が吹いています。とりわけアメリカ市場では、冷凍設備用ポンプやバイオディーゼル市場での需要、



大型製品の需要が活発で、当社では積極的に販売増強に取り組んでいます。

### Q. キャンドモータポンプの今後の成長可能性についてお聞かせください。

当社の今後の成長戦略において、海外戦略の拡大と並ぶもう一つの柱が新しい市場分野の開拓です。その代表がサニタリーと呼ばれる分野です。サニタリーは、物づくり3時間、設備の分解掃除4時間といわれるほど、衛生面が厳しく、現在使用されているポンプは部品点数が多いため、洗浄に大変時間がかかる世界です。当社のサニタリーポンプは、モーター、羽根、ケーシングというわずか3つの構造に変えることで、分解、洗浄、組み立て時間の短縮を実現しました。現在、食品市場、製薬市場に対して本格的に売り込みを開始したところですが。既存市場にも、まだまだ拡大の余地があります。世界中には、危険な液体を扱う企業がありますが、キャンドモータポンプを使ったことがないというだけで使用してもらえない企業もあります。信頼関係さえ築ければ必ず当社の製品を使用していただけると考えています。



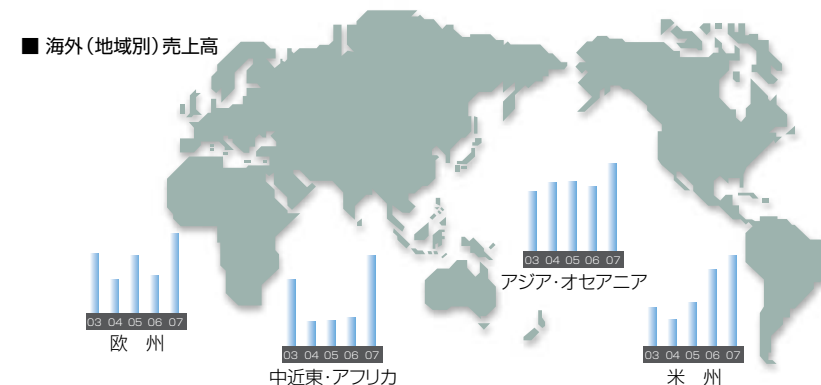
大連帝国キャンドモータポンプ有限公司

### Q. 目標とする企業像についてお聞かせください。

当社の経営目標としては、会社の規模は小粒でもいい。それよりも変化にしなやかに対応できる、筋肉質のしっかりした会社になりたい。別の言葉で言えば、堅実性を持ちながらも進取の気風に富み、チャレンジ精神豊かな企業というのが、当社の目指す企業像であり、経営課題です。そして、そうした人材を育てるのがこれからの仕事になります。

### Q. 今後の事業の見通しについてお聞かせください。

今期は、原材料高など不安要素はありますが、全体の流れとしては風向きはまだフォローであると感じています。アメリカ市場については当社のユーザー先では代替エネルギーとか原子力関係の事業が継続的に計画されており、これらが実行ベースに入れば、受注の増加につながるでしょう。今期はようやくこうした計画が進捗する段階を迎えております。また、中国経済が急に破綻をしない限りは、中期的に十分に成長は期待できます。また、ヨーロッパ市場の上積みや注目のロシア市場にも今後注力するなど、グローバルな観点から見ても、成長は持続できると確信しております。



## 完全無漏洩を実現したキャンドモータポンプ

テイコクは、キャンドモータポンプのトップメーカーとして、豊富な種類と数多くの納入実績を持っています。なかでもメイン製品であるテイコクモータポンプは、一貫して無漏洩流体機器の開発に取り組み、蓄積してきた自社技術の結晶です。完全無漏洩・高信頼度を実現した独自技術が高く評価され、石油化学プラントをはじめ、原子力発電所やJR新幹線にも数多く採用されています。

- 取扱液が外部に漏れる恐れがないため、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。
- 潤滑油を必要としないため、取り扱い液の汚染がなく、給油の手間が不要です。
- 外気を吸い込まないため、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。
- モータ軸がポンプ軸を兼ねているため、小形軽量で設置場所をとらず、分解点検が容易です。
- 軸シールがないため、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。
- モータを冷却するファンがないため、運転音が静かです。



## 独自技術で100%が求められる 厳しい品質基準をクリアー

国内の大部分のポンプメーカーでは、ポンプ部分は自社で製作するものの、動力源であるモータはモータメーカーよりOEM供給を受けるケースがほとんどです。当社はポンプ本体の設計とあわせてモータ設計も同時に行う技術力と最新鋭の設備を有し、お客様のあらゆる要求仕様に対応できる設計・生産体制をとっています。高い開発技術力を維持し、つねに最高品質の製品を供給していくことが私たちの使命であると考えています。



## 石油化学プラントをはじめ、 新幹線や原子力発電所など様々な分野で活躍



たとえば、新幹線の変圧器冷却用にも当社のテイコクモータポンプが活躍しています。高速化、小型化、軽量化が求められる厳しい品質基準をクリア、昭和48年以来0系から最新型のN700系まですべての新幹線に採用されています。また、放射性物質を扱う関係から、



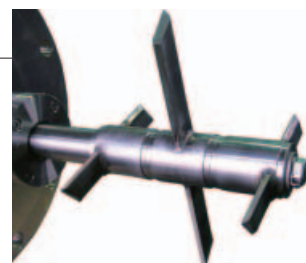
すべての性能にパーフェクトが要求される原子力発電所や多くの危険な液体を使用する石油化学プラント等でもテイコクの製品は厳しい品質を満ち、厳しいニーズに応えています。

## テイクのこれからを支える新製品の魅力を徹底分析

# CLOSE UP NEW

### ●●● キャンドモータ破碎機

テイクキャンドモータかくはん機で培ったノウハウを結集した新発想の破碎機です。モータ軸に直接取付けたカッター刃が高速回転（1000～3600rpm）し、強靱なカッター刃と固形物の衝突により、削りながら固形物を破碎します。用途としては、配管やタンクなどプロセスラインに堆積した固形物を砕き、配管などの詰まりを解消します。タンク直接設置、ピット設置、ライン設置の3種類の設置方法があります。

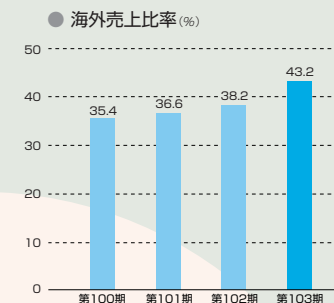


### ●●● 超臨界CO2装置

液体から気体、あるいは気体から液体に変わる極限状態のことを「超臨界」といいます。この超臨界は、環境調和型化学プロセス“グリーンプロセス”を構築し、化学産業のグリーン化、環境にやさしいものづくりの化学や化学技術“グリーンケミストリー”を実現させる新しい技術として注目されています。当社は、自社機器および実験装置による高いトータルコーディネートの実現、お客様との連携や交流によるコラボレーションによる新しいデバイスやプロセスの創出に取り組んでいます。そして、この超臨界プロセスとともに、地球環境のため“グリーンプロセス”の普及に寄与していきたいと考えております。

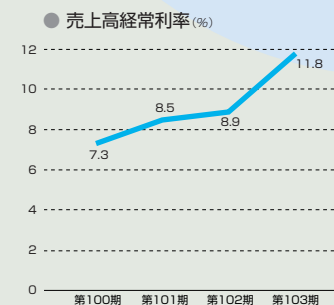
## 海外売上比率 **43.2%**

第100期（平成16年3月期）での海外売上高比率は35.4%（連結売上高11,491百万円、海外売上高4,069百万円）でしたが、平成15年2月の米国ケミポンプ事業部の買収、平成17年10月には韓国の販売子会社TEIKOKU KOREA CO.,LTD.の設立等、積極的な海外戦略を進めてきたことと、当期においては、海外市場向けケミカル用モータポンプに加え、電力関連機器モータポンプ等ケミカル以外用モータポンプの販売が好調であったことにより、海外売上高比率43.2%（連結売上高15,214百万円、海外売上高6,577百万円）と、念願であった海外売上高比率40%を達成することができました。



## 売上高経常利益率 **11.8%**

第100期（平成16年3月期）での売上高経常利益率は7.3%（連結売上高11,491百万円、経常利益840百万円）でしたが、生産性の向上、原材料の仕入れコスト削減努力の継続、当期におきましては、原価低減等による粗利率の改善、販売費及び一般管理費の節減努力等により、売上高経常利益率11.8%（連結売上高15,214百万円、経常利益1,797百万円）と、目標であった売上高経常利益率10%を達成することができました。

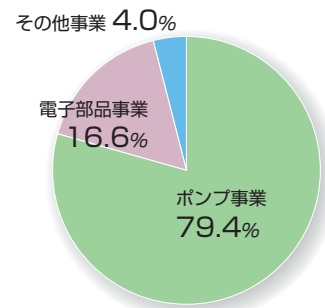


## 連結業績

当社グループの当連結会計年度の業績は、主力のポンプ事業が国内市場・海外市場とも好調に推移したことを主因に、売上高は152億14百万円（前連結会計年度比16億70百万円増加、12.3%増）となりました。

利益面につきましては、原価低減等による粗利率の改善、販売費及び一般管理費の節減努力等により、営業利益は17億35百万円（同6億28百万円増加、56.8%増）、経常利益は17億97百万円（同5億89百万円増加、48.8%増）、当期純利益は10億32百万円（同2億84百万円増加、38.0%増）となりました。

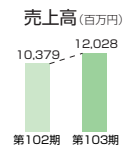
### ■ 事業別売上構成比



## ポンプ事業

ポンプ事業は、主に石油化学業界で使用されるケミカル用モータポンプと電力関連機器等に使用されるケミカル以外用モータポンプから構成されています。主力製品であるケミカル機器モータポンプが国内外の石油化学業界の活発な設備投資等により堅調に増加したことに加え、海外市場向け電力関連機器モータポンプや液晶洗浄用の半導体機器モータポンプの好調等によりケミカル以外用モータポンプも大幅に増加した結果、売上高は120億82百万円（同17億2百万円増加、16.4%増）、連結売上高に占める割合は79.4%となりました。

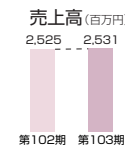
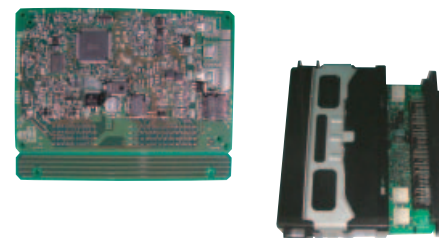
また、営業利益は、売上増と販売費及び一般管理費節減の結果、15億44百万円（同5億42百万円増加、54.2%増）となりました。



## 電子部品事業

電子部品事業は、コントロールユニットのような自動車用電装品とシーケンサ用基盤等の産業機器用基盤が主なもので、子会社株式会社平福電機製作所で製造しています。自動車用電装品の電子機器ユニットの国内外での需要が堅調に推移したため、売上高は25億31百万円（同5百万円増加、0.2%増）、連結売上高に占める割合は16.6%となりました。

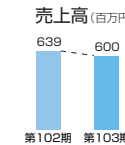
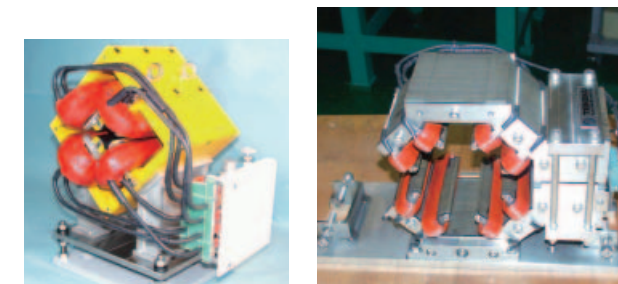
また、営業利益は、生産性の向上により粗利率が大幅に改善した結果、1億59百万円（同97百万円増加、160.1%増）となりました。



## その他事業

その他事業は、昇降機等の特殊機器および健康食品の販売等、主に子会社での事業です。電磁石関連機器が前連結会計年度比低調であり、売上高は6億0百万円（同38百万円減少、6.0%減）、連結売上高に占める割合は4.0%となりました。

この結果、営業利益は32百万円（同12百万円減少、27.6%減）となりました。



## Topics

### 5月・ドイツACHEMA（アヘマ）に出展

ドイツ・フランクフルトで3年に一度開催されるACHEMAは、世界の化学機械メーカーが一堂に集う業界最大の展示発表会です。独自出展2回目の今回は、当社のキャンドモータポンプの出荷台数をクイズ形式にしたユニークな展示で、大きな注目を集めました。



### 9月・東証第一部に上場

当社株式は、平成17年2月28日より東京証券取引所市場第二部に上場しておりましたが、東京証券取引所のご承認をいただき、平成18年9月1日付けで東京証券取引所市場第一部銘柄に指定されることとなりました。また、平成19年2月1日付けで大阪証券取引所市場第一部銘柄にも指定されました。



### 1月・代表取締役の異動

平成19年1月1日付で当社代表取締役社長であった入江慶次郎が代表取締役会長に、代表取締役副社長であった宮地國雄が代表取締役社長にそれぞれ就任いたしました。なお、入江慶次郎は平成19年6月28日をもって、任期満了にともない取締役を退任し、当社相談役に就任いたしました。

■ 連結貸借対照表

科目	(単位：千円)	
	当期 (平成19年3月31日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	9,823,237	8,928,182
現金及び預金	1,616,063	1,581,792
受取手形及び売掛金	5,326,131	4,899,125
たな卸資産	2,425,542	2,092,963
繰延税金資産	362,499	318,133
その他	223,641	173,835
貸倒引当金	△130,640	△137,668
固定資産	5,408,292	5,243,168
有形固定資産	3,823,500	3,883,932
建物及び構築物	1,587,658	1,598,417
機械装置及び運搬具	865,822	928,817
土地	1,126,385	1,130,950
建設仮勘定	115,350	89,149
その他	128,283	136,598
無形固定資産	12,191	11,710
営業権	—	1,989
その他	12,191	9,720
投資その他の資産	1,572,601	1,347,526
投資有価証券	1,357,612	1,151,407
長期貸付金	25,739	25,596
繰延税金資産	80,279	66,394
その他	140,564	136,558
貸倒引当金	△31,594	△32,430
資産合計	15,231,530	14,171,351

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：千円)

科目	(単位：千円)	
	当期 (平成19年3月31日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	4,537,528	4,100,940
支払手形及び買掛金	1,704,420	1,784,266
短期借入金	775,663	351,305
一年以内償還予定社債	80,000	80,000
一年以内返済予定長期借入金	193,966	206,238
未払法人税等	459,580	305,442
繰延税金負債	36,474	23,257
製品保証等引当金	17,151	16,911
賞与引当金	431,168	394,952
役員賞与引当金	26,000	—
その他	813,103	938,564
固定負債	1,202,382	1,465,262
社債	40,000	120,000
長期借入金	79,862	268,290
繰延税金負債	88,926	66,253
退職給付引当金	805,062	799,837
役員退職慰労引当金	136,985	129,517
その他	51,545	81,364
負債合計	5,739,911	5,566,202
(資本の部)		
資本金	—	1,101,303
資本剰余金	—	889,094
利益剰余金	—	6,144,523
株式等評価差額金	—	407,492
為替換算調整勘定	—	71,317
自己株式	—	△8,582
資本合計	—	8,605,148
負債及び資本合計	—	14,171,351
(純資産の部)		
株主資本	8,957,892	—
資本金	1,101,303	—
資本剰余金	889,094	—
利益剰余金	6,976,136	—
自己株式	△8,641	—
評価・換算差額等	533,726	—
その他有価証券評価差額金	426,879	—
為替換算調整勘定	106,847	—
純資産合計	9,491,619	—
負債及び純資産合計	15,231,530	—

■ 連結損益計算書

科目	(単位：千円)	
	当期 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)	前期 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)
売上高	15,214,714	13,544,482
売上原価	9,661,734	8,830,223
売上総利益	5,552,980	4,714,259
販売費及び一般管理費	3,817,513	3,607,309
営業利益	1,735,466	1,106,950
営業外収益	128,747	167,020
営業外費用	66,710	65,653
経常利益	1,797,502	1,208,316
特別利益	6,165	74,823
特別損失	13,730	19,076
税金等調整前当期純利益	1,789,937	1,264,063
法人税、住民税及び事業税	804,204	564,724
法人税等調整額	△47,192	△49,146
当期純利益	1,032,925	748,484

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

科目	(単位：千円)	
	当期 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)	前期 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	873,387	400,908
投資活動によるキャッシュ・フロー	△830,203	△59,508
財務活動によるキャッシュ・フロー	△43,782	△977,432
現金及び現金同等物に係る換算差額	33,876	75,667
現金及び現金同等物の増減額(減少：△)	33,278	△560,364
現金及び現金同等物の期首残高	1,548,973	2,109,338
現金及び現金同等物の期末残高	1,582,252	1,548,973

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結株主資本等変動計算書

当期(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本				評価・換算差額等			純資産合計	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定		評価・換算差額等合計
平成18年3月31日 残高	1,101,303	889,094	6,144,523	△8,582	8,126,338	407,492	71,317	478,809	8,605,148
連結会計年度中の変動額									
固定資産圧縮積立金取崩額			△2,512		△2,512				△2,512
剰余金の配当(注1)			△86,399		△86,399				△86,399
剰余金の配当			△86,399		△86,399				△86,399
役員賞与(注1)			△26,000		△26,000				△26,000
当期純利益			1,032,925		1,032,925				1,032,925
自己株式の取得				△59	△59				△59
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					—	19,386	35,530	54,916	54,916
連結会計年度中の変動額合計	—	—	831,613	△59	831,554	19,386	35,530	54,916	886,470
平成19年3月31日 残高	1,101,303	889,094	6,976,136	△8,641	8,957,892	426,879	106,847	533,726	9,491,619

(注) 1. 平成18年6月29日開催の第102期定時株主総会の利益処分項目であります。

2. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 単体貸借対照表

科目	当期 (平成19年3月31日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	7,485,447	6,503,612
現金及び預金	865,428	998,022
受取手形	698,579	628,320
売掛金	3,507,337	2,931,197
たな卸資産	1,449,862	1,243,119
前払費用	9,353	11,604
繰延税金資産	265,218	234,950
その他	689,668	456,398
固定資産	5,170,591	4,973,240
有形固定資産	2,391,973	2,393,672
建築物	845,211	893,248
構築物	80,464	74,263
機械及び装置	357,428	363,101
車両運搬具	2,857	4,454
工具器具及び備品	97,070	102,515
土地	895,452	899,464
建設仮勘定	113,487	56,624
無形固定資産	7,748	5,756
ソフトウェア	3,593	1,601
電話加入権	4,154	4,154
投資その他の資産	2,770,869	2,573,811
投資有価証券	1,326,035	1,126,930
関係会社株式	562,756	562,756
出資金	6,094	7,559
関係会社出資金	773,657	773,657
長期前払費用	5,571	3,295
保険積立金	40,686	37,476
会員権	43,400	43,400
その他	84,275	91,184
貸倒引当金	△71,609	△72,449
資産合計	12,656,039	11,476,853

\*記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：千円)

科目	当期 (平成19年3月31日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	3,316,855	2,526,405
支払手形	889,747	757,155
買掛金	328,178	336,798
短期借入金	650,000	140,000
一年以内償還予定社債	80,000	80,000
一年以内返済予定長期借入金	112,219	117,664
未払金	275,724	289,760
未払費用	80,896	54,259
未払法人税等	230,272	215,300
未払消費税等	41,204	—
預り金	260,363	197,406
製品保証等引当金	17,151	16,911
与引当金	287,280	276,266
役員賞与引当金	26,000	—
その他	37,816	44,882
固定負債	928,527	1,106,948
社債	40,000	120,000
長期借入金	37,868	150,088
長期未払費用	51,545	51,963
繰延税金負債	81,537	66,204
繰延退職給付引当金	580,590	589,175
役員退職慰労引当金	136,985	129,517
負債合計	4,245,382	3,633,354
(資本の部)		
資本金	—	1,101,303
資本剰余金	—	889,094
資本準備金	—	889,094
利益剰余金	—	5,461,243
利益準備金	—	145,275
任意積立金	—	4,331,773
固定資産圧縮積立金	—	220,773
別途積立金	—	4,111,000
当期繰越利益剰余金	—	984,193
株式等評価差額金	—	400,439
自己株式	—	△8,582
資本合計	—	7,843,498
負債及び資本合計	—	11,476,853
(純資産の部)		
株主資本	7,994,129	—
資本金	1,101,303	—
資本剰余金	889,094	—
資本準備金	889,094	—
利益剰余金	6,012,373	—
利益準備金	145,275	—
その他利益剰余金	5,867,098	—
固定資産圧縮積立金	208,258	—
別途積立金	4,411,000	—
繰越利益剰余金	1,247,839	—
自己株式	△8,641	—
評価・換算差額等	416,527	—
その他有価証券評価差額金	416,527	—
純資産合計	8,410,656	—
負債及び純資産合計	12,656,039	—

■ 単体損益計算書

科目	当期 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)	前期 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)
売上高	8,671,366	7,567,213
売上原価	5,833,387	5,015,595
売上総利益	2,837,978	2,551,618
販売費及び一般管理費	2,017,212	1,928,502
営業利益	820,766	623,115
営業外収益	365,373	496,475
営業外費用	40,042	42,488
経常利益	1,146,097	1,077,103
特別利益	1,260	1,600
特別損失	9,425	15,931
税引前当期純利益	1,137,932	1,062,772
法人税、住民税及び事業税	421,786	359,835
法人税等調整額	△36,296	△43,336
当期純利益	752,442	746,273
前期繰越利益	—	307,041
中間配当額	—	69,121
当期末処分利益	—	984,193

\*記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 単体株主資本等変動計算書

当期(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本							自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	純資産合計
	資本金	資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計				
				固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金					
平成18年3月31日 残高	1,101,303	889,094	145,275	220,773	4,111,000	984,193	5,461,243	△8,582	7,443,059	400,439	7,843,498
事業年度中の変動額											
前事業年度利益処分に係る固定資産圧縮積立金取崩額(注1)				△5,030		5,030	—				—
事業年度中に係る固定資産圧縮積立金取崩額				△4,971		4,971	—				—
市町村合併に伴う税率変更に係る固定資産圧縮積立金取崩額				△2,512			△2,512		△2,512		△2,512
別途積立金の積立額(注1)					300,000	△300,000	—				—
剰余金の配当(注1)						△86,399	△86,399		△86,399		△86,399
剰余金の配当						△86,399	△86,399		△86,399		△86,399
役員賞与(注1)						△26,000	△26,000		△26,000		△26,000
当期純利益						752,442	752,442		752,442		752,442
自己株式の取得							—	△59	△59		△59
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)							—			16,087	16,087
事業年度中の変動額合計				△12,515	300,000	263,645	551,130	△59	551,070	16,087	567,158
平成19年3月31日 残高	1,101,303	889,094	145,275	208,258	4,411,000	1,247,839	6,012,373	△8,641	7,994,129	416,527	8,410,656

(注) 1. 平成18年6月29日開催の第102期定時株主総会の利益処分項目であります。  
2. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 株式の状況 (平成19年3月31日現在)

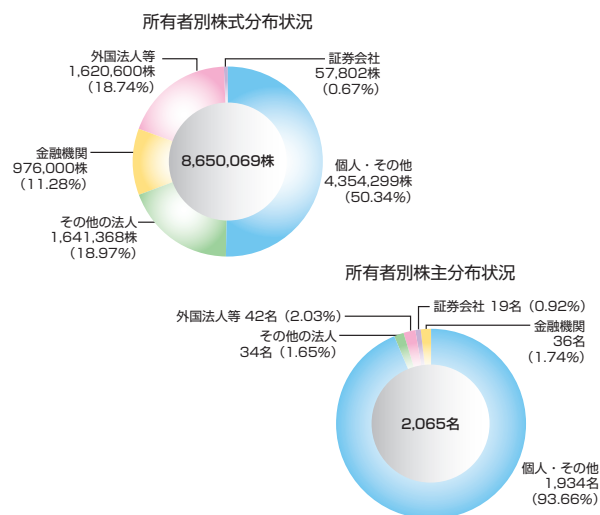
発行可能株式総数 34,600,000株  
 発行済株式の総数 8,650,069株  
 株主数 2,065名

■ 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
三菱電機株式会社	1,143,240株	13.23%
帝国電機製作所従業員持株会	365,262株	4.23%
パソナニューエージェンシーエムクラリアンアカウンツィーアイエス	338,778株	3.92%
刈田耕太郎	292,722株	3.39%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	230,200株	2.66%
徳永耕造	220,300株	2.55%
キャサリンオットーゲーエムベーハー	211,344株	2.45%
ティナオットーゲーエムベーハー	211,344株	2.45%
入江慶次郎	205,314株	2.38%
江頭憲治郎	205,200株	2.38%

(注) 1. 出資比率は、自己株式 (10,126株) を控除して計算しております。  
 2. 比率は小数点第3位以下を四捨五入して表示しております。

■ 株式分布状況



■ 会社概要 (平成19年3月31日現在)

社名 株式会社帝国電機製作所  
 TEIKOKU ELECTRIC MFG. CO., LTD.  
 設立 昭和14年 9月12日  
 資本金 11億130万3,450円  
 従業員数 連結 1,128名 単体 309名  
 本社 〒679-4395  
 兵庫県たつの市新宮町平野60番地  
 Tel. 0791-75-0411 (代表)  
 ホームページ <http://www.teikokudenki.co.jp/>

■ 役員 (平成19年6月28日現在)

代表取締役社長 宮 地 國 雄  
 常務取締役 中 野 治  
 常務取締役 柴 田 直 行  
 取締役 高 橋 昇  
 取締役 其 原 章 治  
 取締役 中 村 嘉 治  
 取締役 尾 上 喜 一 郎  
 常勤監査役 刈 田 耕 太 郎  
 常勤監査役 苅 尾 耕 蔵  
 監査役 曾 我 巖  
 監査役 長 谷 川 克 博



■ 本社および主な事業所

- 本社および新宮事業所  
 〒679-4395 兵庫県たつの市新宮町平野60番地  
 TEL.(0791)75-0411(代) FAX.(0791)75-4317
- 国際事業部  
 〒110-0015 東京都台東区東上野5丁目2番5号(下谷ビル6階)  
 TEL.(03)3841-9311(代) FAX.(03)3841-7334
- 東京営業所  
 〒110-0015 東京都台東区東上野5丁目2番5号(下谷ビル6階)  
 TEL.(03)3841-9311(代) FAX.(03)3841-7332
- 大阪営業所  
 〒530-0057 大阪市北区曽根崎2丁目1番12号(国産ビル6階)  
 TEL.(06)6360-1171(代) FAX.(06)6315-5018
- 西部営業所  
 〒679-4395 兵庫県たつの市新宮町平野60番地  
 TEL.(0791)75-0412 FAX.(0791)75-4190
- 名古屋営業所  
 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1丁目10番19号(名南クリヤビル7階)  
 TEL.(052)571-3691(代) FAX.(052)561-8097
- 九州営業所  
 〒802-0005 北九州市小倉北区駅前2丁目1番1号(丸小倉駅前ビル9階)  
 TEL.(093)531-4311(代) FAX.(093)531-4274
- 千葉出張所  
 〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目10番11号(アイビル2階)  
 TEL.(043)222-5036 FAX.(043)222-5037
- 静岡出張所  
 〒417-0862 静岡県富士市石坂279-1(アジックスC-101)  
 TEL.(0545)23-2700 FAX.(0545)23-2701
- 北陸出張所  
 〒918-8108 福井県福井市春日3丁目1301-1  
 TEL.(0776)35-8330 FAX.(0776)35-9068
- 東京サービス工場  
 〒340-0004 埼玉県草加市弁天4丁目1番2号  
 TEL.(048)931-7177 FAX.(048)936-1610



■ 国内子会社

- 株式会社協和電機製作所  
 兵庫県養父市大屋町夏梅12番地  
 TEL.0796-69-0022 FAX.0796-69-1852
- 株式会社帝伸製作所  
 兵庫県たつの市新宮町吉島440番地  
 TEL.0791-75-0315 FAX.0791-75-0455
- 株式会社平福電機製作所  
 兵庫県播磨郡太子町福地745-1  
 TEL.079-277-4094 FAX.0792-77-4023
- 上月電装株式会社  
 兵庫県佐用郡佐用町須安150番地  
 TEL.0790-86-0136 FAX.0790-86-1028
- 株式会社帝和エンジニアリング  
 兵庫県たつの市新宮町平野60番地  
 TEL.0791-75-4162 FAX.0791-75-0619

■ 海外子会社

- TEIKOKU USA INC.  
 7010 Empire Central Drive, Houston, TX 77040-3214  
 TEL.+1-713-983-9901 FAX.+1-713-983-9919
- 大連帝国キヤンドモータポンプ有限公司  
 中国大連市三壟堡工業科技園区  
 TEL.+86-411-8626-9662 FAX.+86-411-8626-9499
- 台湾帝国ポンプ有限公司  
 台湾台北市中山区錦州街5号9楼之1  
 TEL.+886-2-2568-9800 FAX.+886-2-2568-2670
- TEIKOKU SOUTH ASIA PTE LTD.  
 43 GUL DRIVE, JURONG SINGAPORE 629490  
 TEL.+65-6897-7250 FAX.+65-6897-7096
- TEIKOKU ELECTRIC GmbH  
 Nummerger str. 24, D-40599, Dusseldorf, Germany  
 TEL.+49-211-700-6778 FAX.+49-211-749-0011
- TEIKOKU KOREA CO., LTD.  
 3F Hannam Tower Annex Building II, #730 Hannam-dong, Yongsan-gu, Seoul Korea  
 TEL.+82-2-790-7012 FAX.+82-2-790-7014

